

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】令和 2 年 5 月 21 日 (2020.5.21)

【公開番号】特開 2019-14800 (P2019-14800A)

【公開日】平成 31 年 1 月 31 日 (2019.1.31)

【年通号数】公開・登録公報 2019-004

【出願番号】特願 2017-132145 (P2017-132145)

【国際特許分類】

C 0 8 L 83/07 (2006.01)

C 0 8 L 83/05 (2006.01)

C 0 9 J 183/07 (2006.01)

C 0 9 J 11/02 (2006.01)

C 0 9 J 183/05 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 83/07

C 0 8 L 83/05

C 0 9 J 183/07

C 0 9 J 11/02

C 0 9 J 183/05

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 4 月 6 日 (2020.4.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

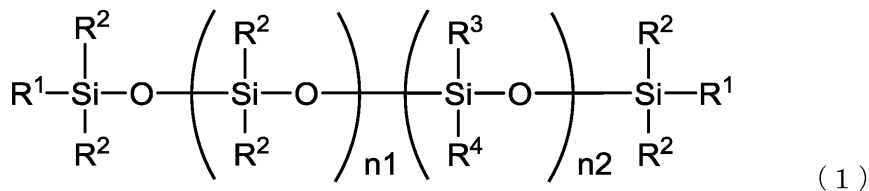
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(A) 式 (1) :

【化 1 4】



(式中、

R¹ は、独立して、C₂ - C₆ アルケニル基であり、

R² は、独立して、C₁ - C₆ アルキル基であり、

R³ は、独立して、C₆ - C₂₀ アリール基であり、

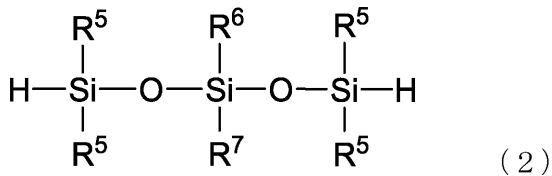
R⁴ は、独立して、C₆ - C₂₀ アリール基又は C₁ - C₆ アルキル基であり、

n₁ は、2 ~ 1500 であり、

n₂ は、0 ~ 1000 である) で示される、直鎖状ポリオルガノシロキサン ;

(B 1) 式 (2) :

【化 15】



(式中、

 R^5 は、独立して、 $\text{C}_1 - \text{C}_6$ アルキル基であり、 R^6 は、独立して、 $\text{C}_6 - \text{C}_{20}$ アリール基であり、 R^7 は、独立して、 $\text{C}_6 - \text{C}_{20}$ アリール基又は $\text{C}_1 - \text{C}_6$ アルキル基である) で示される直鎖状ポリオルガノハイドロジェンシロキサン；

(B2) 一分子中に、ケイ素原子に結合した水素原子を3個以上有する、ポリオルガノハイドロジェンシロキサン；

並びに

(C) 白金系触媒；

を含み、

$(\text{H}_{\text{B}1} + \text{H}_{\text{B}2}) / \text{Vi}_A$ が $0.4 \sim 2.5$ であり、ここで、 Vi_A は、(A) のアルケニル基のモル数であり、 $\text{H}_{\text{B}1}$ は、(B1) のケイ素原子に結合した水素原子のモル数であり、 $\text{H}_{\text{B}2}$ は、(B2) のケイ素原子に結合した水素原子のモル数である、硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

【請求項2】

(B2) が、 $\text{SiO}_{4/2}$ 単位及び $\text{R}^8 \text{SiO}_{3/2}$ 単位 (式中、 R^8 は、 $\text{C}_6 - \text{C}_{20}$ アリール基又は $\text{C}_1 - \text{C}_6$ アルキル基である) からなる群より選択される1以上の単位と、 $\text{H}(\text{R}^9)_2 \text{SiO}_{1/2}$ 単位 (式中、 R^9 は、 $\text{C}_6 - \text{C}_{20}$ アリール基又は $\text{C}_1 - \text{C}_6$ アルキル基である) とからなる、ポリオルガノハイドロジェンシロキサンである、請求項1に記載の硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

【請求項3】

$\text{H}_{\text{B}1} / (\text{H}_{\text{B}1} + \text{H}_{\text{B}2})$ が $0.1 \sim 0.98$ である、請求項1又は2に記載の硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

【請求項4】

画像表示装置の画像表示部を有する基部と透光性の保護部との接着用である、請求項1～3のいずれか1項記載の硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

【請求項5】

請求項1～4のいずれか1項記載の硬化性ポリオルガノシロキサン組成物を用いて、画像表示装置の画像表示部を有する基部と透光性の保護部とを接着した画像表示装置。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

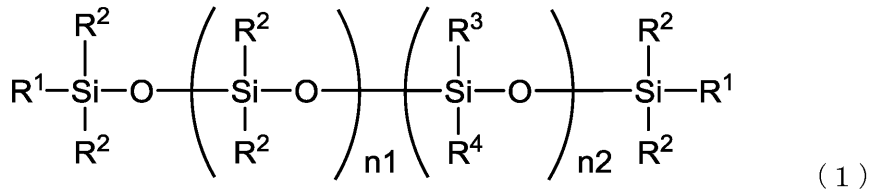
【補正の内容】

【0008】

本発明は、以下の構成を有する。

[1] (A) 式(1)：

【化 1】

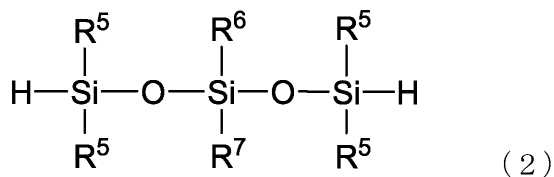


(式中、

 R^1 は、独立して、 $\text{C}_2 - \text{C}_6$ アルケニル基であり、 R^2 は、独立して、 $\text{C}_1 - \text{C}_6$ アルキル基であり、 R^3 は、独立して、 $\text{C}_6 - \text{C}_{20}$ アリール基であり、 R^4 は、独立して、 $\text{C}_6 - \text{C}_{20}$ アリール基又は $\text{C}_1 - \text{C}_6$ アルキル基であり、 $n1$ は、 $2 \sim 1500$ であり、 $n2$ は、 $0 \sim 1000$ である) で示される、直鎖状ポリオルガノシロキサン；

(B1) 式(2)：

【化 2】



(式中、

 R^5 は、独立して、 $\text{C}_1 - \text{C}_6$ アルキル基であり、 R^6 は、独立して、 $\text{C}_6 - \text{C}_{20}$ アリール基であり、 R^7 は、独立して、 $\text{C}_6 - \text{C}_{20}$ アリール基又は $\text{C}_1 - \text{C}_6$ アルキル基である) で示される直鎖状ポリオルガノハイドロジェンシロキサン；

(B2) 一分子中に、ケイ素原子に結合した水素原子を 3 個以上有する、ポリオルガノハイドロジェンシロキサン；

並びに

(C) 白金系触媒；

を含み、

($\text{H}_{B1} + \text{H}_{B2}$) / Vi_A が $0.4 \sim 2.5$ であり、ここで、 Vi_A は、(A) のアルケニル基のモル数であり、 H_{B1} は、(B1) の水素原子のモル数であり、 H_{B2} は、(B2) の水素原子のモル数である、硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

[2] (B2) が、 $\text{SiO}_{4/2}$ 単位及び $\text{R}^8 \text{SiO}_{3/2}$ 単位 (式中、 R^8 は、 $\text{C}_6 - \text{C}_{20}$ アリール基又は $\text{C}_1 - \text{C}_6$ アルキル基である) からなる群より選択される 1 以上の単位と、 $\text{H}(\text{R}^9)_2 \text{SiO}_{1/2}$ 単位 (式中、 R^9 は、 $\text{C}_6 - \text{C}_{20}$ アリール基又は $\text{C}_1 - \text{C}_6$ アルキル基である) とからなる、ポリオルガノハイドロジェンシロキサンである、[1] の硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

[3] $\text{H}_{B1} / (\text{H}_{B1} + \text{H}_{B2})$ が $0.1 \sim 0.98$ である、[1] 又は [2] の硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

[4] 画像表示装置の画像表示部を有する基部と透光性の保護部との接着用である、[1] ~ [3] のいずれかの硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

[5] [1] ~ [4] のいずれかの硬化性ポリオルガノシロキサン組成物を用いて、画像表示装置の画像表示部を有する基部と透光性の保護部とを接着した画像表示装置。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 4 】

〔硬化性ポリオルガノシロキサン組成物〕

硬化性ポリオルガノシロキサン組成物（以下、単に「組成物」ともいう。）は、（Ａ）前記式（１）で示される直鎖状ポリオルガノシロキサン；（Ｂ１）前記式（２）で示される直鎖状ポリオルガノハイドロジェンシロキサン；（Ｂ２）一分子中に、ケイ素原子に結合した水素原子を３個以上有する、ポリオルガノハイドロジェンシロキサン；並びに（Ｃ）白金系触媒；を含み、 $(H_{B1} + H_{B2}) / Vi_A$ が 0.4 ~ 2.5 であり、ここで、 Vi_A は、（Ａ）のアルケニル基のモル数であり、 H_{B1} は、（Ｂ１）のケイ素原子に結合した水素原子のモル数であり、 H_{B2} は、（Ｂ２）のケイ素原子に結合した水素原子のモル数である。

【手続補正４】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 3 9 】

組成物は、アルケニル基含有ポリオルガノシロキサンが（Ａ）のみからなることが好ましく、この場合、組成物は、（Ａ）以外のアルケニル基含有ポリオルガノシロキサンを含まない。また、組成物は、ポリオルガノハイドロジェンシロキサンが（Ｂ１）及び（Ｂ２）のみからなることが好ましく、この場合、組成物は、（Ｂ１）及び（Ｂ２）以外のポリオルガノハイドロジェンシロキサンを含まない。

【手続補正５】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 4 6

【補正方法】 変更

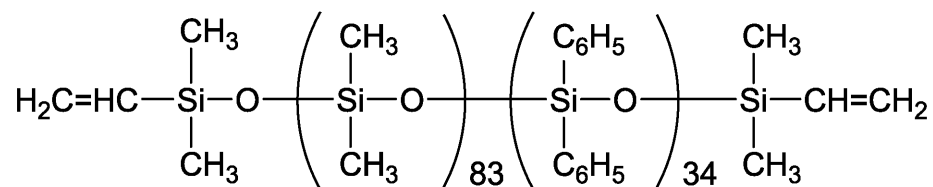
【補正の内容】

【 0 0 4 6 】

A 1：下記の混合物。この混合物中、A 1 - 1 が 87 重量％であり、D 1 が 13 重量％である。

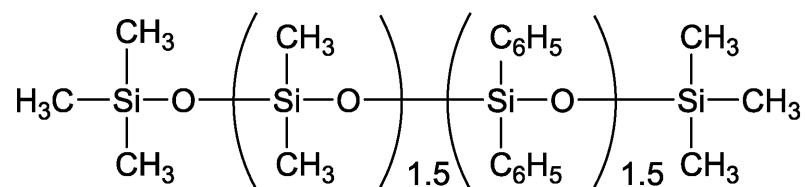
A 1 - 1：下式で示される直鎖状ポリオルガノシロキサン（ $M^V D_{8.3} D^{Ph^2}_{3.4} M^V$ ）

【化 9】

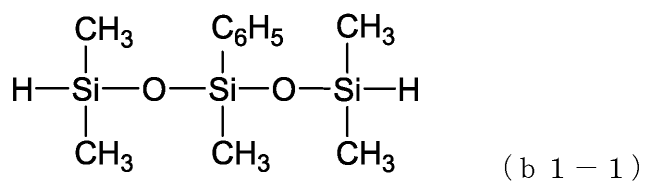


D 1：下式で示される直鎖状ポリオルガノシロキサン（ $M D_{1.5} D^{Ph^2}_{1.5} M$ ）

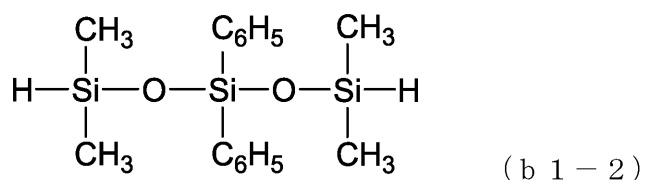
【化 10】



B 1 - 1 : 式 (b 1 - 1) で示される直鎖状ポリオルガノハイドロジェンシロキサン
【化 1 1】



B 1 - 2 : 式 (b 1 - 2) で示される直鎖状ポリオルガノハイドロジェンシロキサン
【化 1 2】

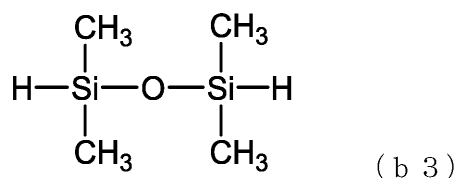


B 2 - 1 : 平均単位式が $\text{M}^{\text{H}}_8 \text{Q}_4$ で示されるポリオルガノハイドロジェンシロキサン (有効水素量 1 重量%)

B 2 - 2 : 平均単位式が $\text{M}^{\text{H}}_6 \text{T}^{\text{Ph}}_4$ で示されるポリオルガノハイドロジェンシロキサン (有効水素量 0.65 重量%)

B 3 : 式 (b 3) で示される直鎖状ポリメチルハイドロジェンシロキサン

【化 1 3】



C 1 : 塩化白金酸を 1, 3 - ジビニル - 1, 1, 3, 3 - テトラメチルジシロキサンとモル比 1 : 4 で加熱することによって得られ、白金含有量が 4.9 重量%である錯体